

# 令和4年度小平市立上水中学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

### (1) 教科に関する調査

身に付けておこななければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを生徒が答える調査です。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを生徒が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

#### 課題

全国の正答率を基準に見ると本校の正答率は東京都の正答率と同様、0.1ポイント高かった。「言葉の特徴や使い方に関する事項」は全国で2.6ポイント、都で1.2ポイント上回り語彙力が高いことがうかがえる。それに関連し、「読むこと」の項目の正答が全国で1.6ポイント高かった。

「書くこと」の中で、資料から必要な情報を引用し既存の文章に加筆する項目の正答率が全国や都に比べ低いことから、自分の考えが伝わる文章になるよう根拠を明確にして書く力を養うことが課題である。

### 学校で取り組む具体的な改善策

- 1 目的に応じて書いた文章や相手に分かりやすく伝える文章で、自分の実生活や体験につなげて深く豊かなものにできるよう、例を挙げながら繰り返し指導する。書いた文章を読み合って交流する活動を通して、良い文章に触れる機会を増やす。
- 2 毎学期行っているスピーチでは、書いた文章を自分で推敲させることで、どうしたら相手により伝わる表現になるかを考えさせる。
- 3 語意を文脈の中で生かしたり文の成分を上手く組み立てたりするには、朝読書で良書を選び、語彙力を付けることが大事であることを引き続き指導していくとともに、教科書の音読の大切さを繰り返し伝え、実践させる。

### 【数学】

#### 状況の分析

#### 課題

正答率は都平均より3ポイント上回る結果となった。特に数学的な技能に関する問題の正答率が高かった。しかし、正解数を四分位数で見ると第1四分位数（6問）以下の生徒が都や全国平均より多くなっており、第2四分位数（9問）程度に多く分布している。

数学の基礎が身に付いている生徒と、身に付いていない生徒に差がみられた。また、正答率が44%で都平均より低い問題は、図形の内容であった。作図では問題の内容を的確に捉え、図に表現する力を養う必要がある。

## 学校で取り組む具体的な改善策

- 1 習熟度別少人数指導の利点を生かし、意欲的に取り組める課題の設定や、やる気を引き出す丁寧な指導を引き続き行う。
- 2 週末等の家庭学習課題により基礎・基本の定着を図るとともに、家庭学習の習慣を身に付けさせる。
- 3 デジタル教科書等、ICT機器を活用した図形分野での視覚的な理解を図る。

### 【理科】

#### 状況の分析

#### 課題

全国の正答率を基準に見ると本校の正答率は5.7ポイント（都平均よりも4ポイント）高かった。学習指導要領の領域（エネルギー・粒子・生命・地球）全てで全国平均、都平均を上回っており、知識・技能の観点だけでなく、思考・判断・表現の観点もよくできている。特に「地球」を柱とする領域に関する問題の正答率が大幅に高かった。

「エネルギー」を柱とする領域が他の領域に比べて低いので、計算問題は公式や基礎的なところの反復をする、映像や画像を使って分かりやすく説明することが必要である。

## 学校で取り組む具体的な改善策

- 1 単元や授業のねらいを明確にし、振り返りの時間を確保した展開をする。
- 2 問題集の取組方やテスト前の学習方法など一人一人に合わせた指導を行う。
- 3 実験・観察の考察を十分に行い、自分の考えをもたせるようにする。苦手な生徒には、考え方の道筋を示すようにする。
- 4 クロームブックを用いて、動画や画像など興味を引かせる題材を工夫する。
- 5 観察実験を行うグループを配慮し、スムーズに学習を進め深められるようにする。実験・観察の考察を十分に行い、自分の考えをもたせるようにする。苦手な生徒には、考え方の道筋を示すようにする。
- 6 既習事項の確認を問題集を活用して行う。

- 基本的な生活面「毎日、同じくらいの時間に寝ますか」については全国より9ポイント低い。しかし、「同じくらいの時刻に起床している」については全国より1.2ポイント高い。
- 自己肯定感「自分には、よいところがありますか」については、全国より5ポイント高い。また「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」も全国より8ポイント高い。反面、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」では、全国よりも9.8ポイント低い。
- 「家で自分で計画を立てて勉強していますか」については「している」と「どちらかというとしている」の合計が全国を6.5、都を7.9ポイント下回った。対して平日の家庭学習時間が2時間以上は、全国を13.8、都を7ポイント上回り、土日の家庭学習時間も3時間以上が全国を9.4、都を4.9ポイント上回っている。
- 「学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」については、週3回以上使用が全国を20.8、都を18.5ポイント上回っているが、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」では、役に立つと思うが全国で5.7、都で1.5ポイント下回っている。
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたことがありますか」については、全国より6.1ポイント低く、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」についても、10.3ポイント低かった。

- 基本的な生活習慣は身に付いている生徒が多く、家庭の支援や協力の成果と考えられる。一方で、スマートフォンやゲームを長時間に渡り使用している生徒も見受けられるため、時間の使い方や家庭での約束を守る手だてが必要である。
- 自己肯定感の高みが見られてきてはいるが、自分で決めたことを実際の行動に移すことに関しては、積極性に欠ける面が見られるため、思いを行動に移すための手だてが必要である。
- ICT機器の効果的な使用について精査し、生徒が有用感をもって使用できるようにする必要がある。
- 授業に真面目に取り組む生徒が多く、家庭学習が習慣化され時間も増えている一方で、学習において受け身的であるため、主体的に授業に参加する態度を培う必要がある。
- 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、多くの地域での催物が中止等になる中で、地域や社会の一員としての意識の弱まりが見られる。また、実際に行動に移すことに関しての積極性に欠ける面が見られる。

### 学校で取り組む具体的な改善策

- 1 計画的な家庭学習の充実のため、決められた宿題だけでなく自主学習を進める取組として、放課後の自習教室を開設したり、デイリーライフを活用し、見通しをもって学習することを支援する。
- 2 各教科の授業や特別活動等において、生徒が主体的に考える時間を意図的・計画的に設定し、自分の意見を表現する機会を増やすとともに、互いに意見を交換したり教え合う場を設定する。
- 3 「ICTを活用した授業改善・指導の充実」という研究主題で、2年間の研究成果を活かした効果的なICTの活用にさらに精査を加えながら持続的に実践していく。
- 4 各教科の授業や特別活動等において、自分に合った目標や課題を設定し、それを達成していくことで少しずつ自信を付けさせ、積極性を身に付けさせていく。